



ニッポン ドクター和の 臨終図巻

長尾和宏 (ながお・かずひろ) 医学博士。東京医大卒業後、大塚大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。この連載が「平成臨終図巻」として甲行本化され、好評発売中。関西国際大学客員教授。

戦後の韓国元首として、初めて日本を訪れ、昭和天皇が晩さん会を賜ったことでも知られる、韓国元統領の全斗煥氏が11月23日、ソウル市内の自宅で死去しました。享年90。死因は正式に発表されていませんが、全氏の最期近くは、「コロナワクチンを接種後に、血液がんを発症していた。接種後、10日間食事ができなかった」と主張。韓国では騒ぎになっているようです。

韓国元統領 全斗煥

は、治療を続けていたといえます。

多発性骨髄腫は、血液細胞の一種である形質細胞ががん化する病気です。骨の中でがん細胞が増殖する血液のがんです。初期症状としては、腰痛や背中痛があります。整形外科ですと治療をしていたが回復せず、検査をしたら骨髄腫だったという人を何例か診てきました。骨が血液中に



で骨髄腫を発症したということはありません。骨髄腫は、時間をかけてゆっくり進行する病気です。少なくとも数カ月前から全氏の体内にあったはず。だからワクチンを打つと骨やがんになって死にというのは、考えられません。

溶け出すため、「高カルシウム血症」を起し、吐き気や便秘を訴える人もいます。整形外科に通い続けても治らない背中痛、腰痛がある場合は、他の病気を疑って血液検査なども行うことが大切です。

他の血液がんには比べ有効な手立てが少ない病気でした。しかしこの10年ほどは、新しい分子標的薬によって劇的に回復する人が増えました。もはや骨髄腫「死に至る病」とは言えませんが、韓国メディアが報じているように、ワクチン接種

ワクチン接種で骨髄腫発症はありえない

韓国メディアは大騒ぎしてるが…
韓国は、今回の全氏のような著名人の死をきっかけに、それがワクチンによるものか否かを専門家たちが公に議論できる土壌がある。しかしわが国では、「因果関係不明」の一言で、詳細を報道せぬまま騒ぎをしているのは…どちらのやり方が、国民の不安を払拭できるでしょうか。今後の韓国メディアを注視したいです。

しかし全氏は今年8月、「多発性骨髄腫」と診断を受